

# 議題 1

## 青少年交流事業の開催結果について（報告）

- |                                     |    |
|-------------------------------------|----|
| 1 「青少年国際平和未来会議2019ヒロシマ（第15回）」開催結果   | 3  |
| 2 「2019広島市・大邱広域市青少年交流事業（第18回）」開催結果  | 10 |
| 3 「令和元年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第42回）」開催結果 | 14 |

「青少年国際平和未来会議 2019 ヒロシマ（第15回）」 開催結果

1 目的

広島市の姉妹・友好都市等の青少年と本市の青少年が互いに世界平和について考え意見を交換し合うことにより、友情と相互理解を深めるとともに、広く世界の国々の青少年に核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝え、次代を担う青少年の世界平和への意識を高めることにより、グローバル人材の育成を図る。

2 主催

青少年国際平和未来会議 2019 ヒロシマ実行委員会

〔構成：広島市、広島市教育委員会、（一社）広島国際青少年協会、（公財）広島平和文化センターほか〕

3 事業期間

令和元年8月4日（日）～8月12日（月）（8泊9日）

4 開催場所

広島市内及びその周辺

5 参加者

広島市 22名〔指導者3名、青少年19名（高校生7名、大学生12名）〕

姉妹・友好都市等12都市 30名〔指導者6名、青少年24名（高校生8名、大学生16名）〕

ボルゴグラード、サンクトペテルブルク（ロシア）、重慶、成都（中国）、大邱（韓国）

バンコク（タイ）、ハノーバー（ドイツ）、イーペル（ベルギー）、グリニー（フランス）

モンテルパ（フィリピン）、ベローナ（イタリア）、テヘラン（イラン）

※ 本事業は、（公財）広島平和文化センター平和首長会議・2020ビジョン推進課が実施する『青少年「平和と交流」支援事業』と連携して実施し、平和首長会議の概要説明や加盟都市の取組紹介等もプログラムの一部に組み入れる。

6 主な日程

| 日付       |    | 活動内容  | 宿泊     |
|----------|----|---|--------|
| 8月4日（日）  | 終日 | 集合 海外都市参加者広島到着（出迎え）                                     | 国際青年会館 |
| 8月5日（月）  | 午前 | オリエンテーション、伝承者講話   |        |
|          | 午後 | 原爆詩朗読練習、各都市プレゼンテーションの練習等、平和記念資料館見学、※グループ別フィールドワーク、歓迎夕食会 |        |
| 8月6日（火）  | 午前 | 平和記念式典参列、鯉のぼり署名活動                                       |        |
|          | 午後 | 開会行事（各都市プレゼンテーションほか）、灯籠流し                               |        |
| 8月7日（水）  | 午前 | 平和首長会議概要説明・取組紹介   |        |
|          | 午後 | 厳島神社参拝・散策   |        |
| 8月8日（木）  | 午前 | グループ討論  | ホームステイ |
|          | 午後 | 上田流和風堂訪問、ホームステイ対面式                                      |        |
| 8月9日（金）  | 午前 | グループ討論  | ホームステイ |
|          | 午後 | 学校訪問（舟入高校、基町高校）   |        |
| 8月10日（土） | 午前 | グループ討論、全体討論   | 国際青年会館 |
|          | 午後 | 全体討論、盆ダンス   |        |
| 8月11日（日） | 午前 | 全体討論、ヒロシマアピール作成   |        |
|          | 午後 | フリータイム、閉会式、さよならパーティ                                     |        |
| 8月12日（月） | 終日 | 海外都市参加者広島出発（見送り）  |        |

※平和首長会議・2020ビジョン推進課が実施するユースピースボランティア（研修を受けた青少年ボランティア）によるガイド

## 7 研修会等

|        |             |                 |
|--------|-------------|-----------------|
| 事前研修会① | 6月 9日 (日)   |                 |
| 事前研修会② | 6月 16日 (日)  |                 |
| 事前研修会③ | 6月 23日 (日)  |                 |
| 事前研修会④ | 7月 7日 (日)   |                 |
| 事前研修会⑤ | 7月 21日 (日)  |                 |
| 事後研修会  | 9月 1日 (日)   |                 |
| 事業報告会  | 11月 17日 (日) | 「国際フェスタ 2019」にて |

※2 か月に1度のペースで継続的に Web 会議を行う。

## 8 事業後の取組

### ① 活動内容の発信

- ・ 9月 17日 (火) マレーシアでの海外交流事業において活動紹介
- ・ 10月 15日 (火) 舟入高校で発表予定  
(今後、順次参加者の所属校や、留学先などにおいて発表予定)
- ・ 11月 17日 (日) 国際フェスタ 2019 における報告会での発表

### ② 参加者同士の継続的な交流

- ・ 10月 20日 (日) ハノーバー市との Web 会議 (ボルゴグラード市とも実施に向けて調整中)
- ・ SNS での交流

### ③ 成果物の作成と共有

- ・ 未来会議開催期間中の動画をインターネット上で公開し、姉妹・友好都市と共有 (11月頃)
- ・ 参加者の感想や今後の取組をレポートブックにまとめ、姉妹・友好都市に配布 (3月頃)

### ④ 事業のさらなる充実に向けた取組

- ・ 参加者に対する事後活動に係る定期的な事後アンケートの実施
- ・ 他都市への Web 会議参加の働きかけ

## 9 成果

- ・ 参加した青少年は、長期間にわたり活動を共にする中で、互いの長所や魅力を発見しながら友情を深め合うとともに、各自の考え方や意見の違いを認め合いつつグループとしてのより良いあり方を模索していく中で、相互理解へ向けた努力や忍耐の重要性を再認識することができた。
- ・ 議論においては、それぞれの自国で若者に求められていることは何かを共有し、若い世代が世界平和の実現に向けてできることは何かについて意見交換を重ね、その成果を「ヒロシマアピール」(別紙参照)として発表した。アピール文や事業の内容については、英語版も作成し、広島市ホームページ、フェイスブック、ツイッター上で公開し、姉妹・友好都市等と共有することができた。
- ・ 広島市のブランチ(本事業をベースに平和について考え行動する青少年の組織 ※広島とハノーバーには設置済)のメンバーが中心となって企画段階から積極的に関わり、事前研修の際には、自らの経験等を踏まえながら、グループ討論を行う上での心構えや留意点を助言したり、各プログラム実施においては、進行等の運営に関わるなど、青少年の主体的な活動が展開された。
- ・ 広島市のブランチのメンバーが企画・運営に係わることにより蓄積された経験やノウハウが、来年度以降の本事業の円滑な実施や、充実・発展につながることを期待できる。

## 10 課題

- ・ 参加者に醸成された世界平和に向けた活動へのモチベーションを持続できるよう、事後研修会等を一層充実させるとともに、本市の参加者の事後活動の場の確保や、フォローアップを着実にを行う必要がある。
- ・ 姉妹・友好都市に対し、本事業の充実・発展に向けたブランチの役割や重要性の理解を図るとともに各都市ごとに設置できるよう働きかける必要がある。

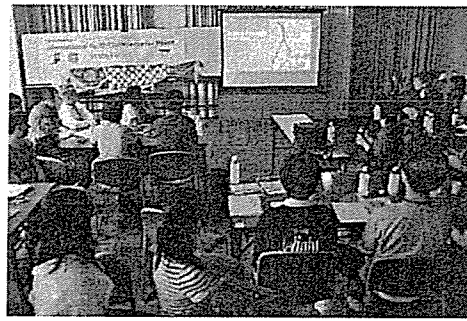
## 《参加者の所感（一部抜粋）》

- ・ 貴重な国際交流の機会として非常に有意義な時間でした。大学の研修などとはまた違った国際交流のチャンスとして、今後も存続してほしいと思います。また、活動したことを SNS 等で報告するだけでは意味がないので、今後参加が期待できる世代に向けて情報を共有すべきだと思います。今後、平和や国際交流の関連のイベントや会議で成果発表ができればいいと思います。（大学院1年・男子）
- ・ 世界には、様々な考えをもったたくさんの方がいることを、会議を通して実感しました。特に、それぞれの国が抱える問題は、世界的に叫ばれている少子・高齢化、地球温暖化以外にも、暴力犯罪率が高いことなど、今まで自分が思いつかなかった問題が挙がっていて、新たな考え方ができました。また、平和というのは、人によって違う考え方をもち、人によってその価値も違うため、平和を定義することは難しくそれを達成することも難しいと改めて感じました。今後は、自分達が考える平和、起こした行動を多くの人に伝えるため、インターネットを使いながらその情報を発信することや平和について自由に意見できる掲示板を作ることができたらいいと思います。（大学2年・男子）
- ・ 以前広島開催に二度参加しているため、過去と比べると今回は全体的に雰囲気もよく一体化してプログラムを作り上げることができたのではないかと思います。ディスカッションも自分の班ではみんなが発言することができ、グループ行動でもみんなで仲良く過ごすことができました。リーダーの役割を100%こなすことはできませんでしたが、日本人参加者以外にも海外メンバーが助けてくれたので、今回の未来会議は成功したと思っています。今回は、会議中ランチについての話題に触れることができなかったので、参加者同志で一年は定期的に連絡を取り合い、アクションを起こす計画し、次の参加者に引継ぎができればと思っています。（大学2年・女子）
- ・ 様々な国の人と交流できたことで、私自身の考え方を変えるきっかけになっただけでなく、視野も広げることができたので、参加できたことを嬉しく思います。今後は、未来会議へ参加したことを共有する場をつくり、知り合った外国人参加者との交流や連絡を絶やさないためにも、定期的にテレビ会議を開催したいと思っています。（大学1年・女子）
- ・ 色々な国の人と交流して仲良くなれた事が今回参加して一番の財産になったと思います。はじめからみんながフレンドリーで、すぐにうちとけることができ、良い雰囲気の中で過ごせたことが良かったです。私は今回班のリーダーだったのですが、グループのみなさんに助けられました。海外参加者の皆さんも、日本文化を体験しようとする姿勢も積極的で、私のグループのメンバーは全員日本語を勉強していて、日本への愛が伝わって、私自身も日本をより誇りに思えました。今後は、学校で未来会議の事を発表する場を設けたいと考えています。また、私はフランスに留学するので、その際には折り鶴を折って広島のことを伝えたり、ホストファミリーにも未来会議の事を話したいと思っています。（高校3年・女子）
- ・ 今回の未来会議の参加を通して、「英語は外国人と話すためには絶対に必要で、もっと英語を頑張りたいと思いました。また、いろいろなバックグラウンドを持つ人と関わっていく中で、相手の文化や考え方もたくさん知っていかないといけないし、自分の軸・アイデンティティみたいのものを持っておく必要があると思いました。一人が異なる考えや意見を持っていて、それを一つに集約することは、すごく難しかったです。楽しく参加することができました。また、皆に自分の意見に納得してもらうために、きちんと理由や例を挙げる必要があります。普段の生活ではできないような素晴らしい体験をすることができました。今後は、学校のクラスや学年で未来会議での活動や学んだことをプレゼンすることになっています。また、学校の海外姉妹校との相互訪問の際にも、未来会議のような平和に関する議題を取り入れたディスカッションをしたいと思っています。（高校2年・女子）

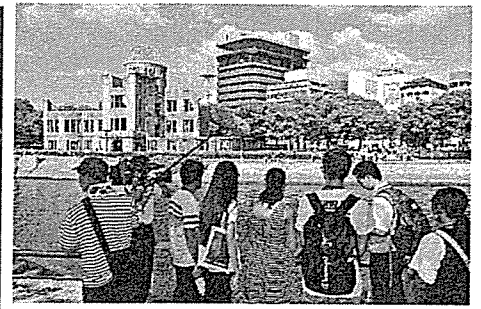
《活動の様子》



6/23(日) 事前研修会



8/5(月) 伝承者講話 (森河伸子さん)



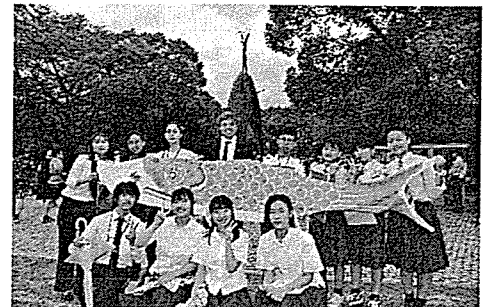
8/5(月) ユースピースボランティアガイド



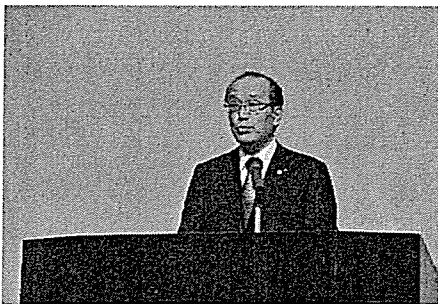
8/5(月) 資料館見学



8/6(火) 平和記念式典参列



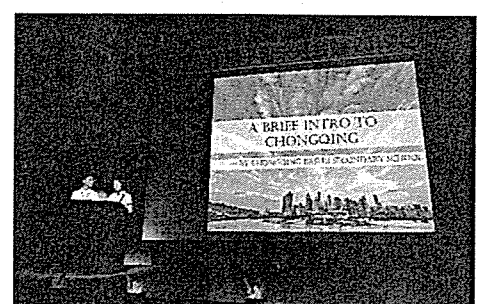
8/6(火) 鯉のぼり署名活動



8/6(火) 開会式市長挨拶



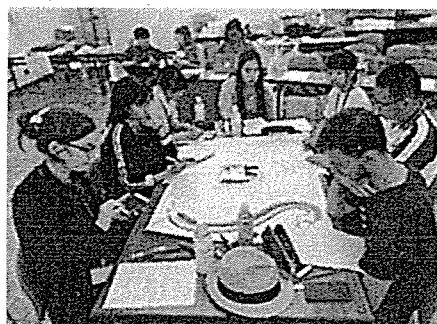
8/6(火) 原爆詩朗読



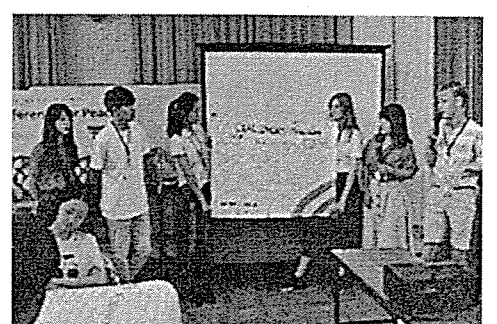
8/6(火) 各都市プレゼンテーション



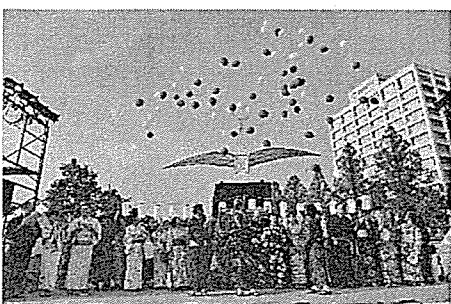
8/7(水) 厳島神社参拝



8/8(木) グループディスカッション



8/9(金) プレゼンテーション



8/10(土) 盆ダンスオープニング出場



8/10(土) 浴衣・盆踊り体験

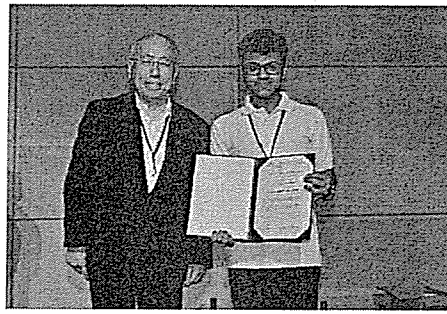


8/11(日) 教育長挨拶





8/11(日)閉会式・ヒロシマアピール発表



8/11(日)未来会議平和大使委嘱状授与



8/11(日)議長閉会挨拶



8/11(日)閉会式



8/11(日)フェアウェルパーティ

## 青少年国際平和未来会議 広島アピール 2019

親愛なる読者のみなさま

私たちは広島が開催する青少年国際平和未来会議ヒロシマ 2019 に参加し、この宣言を共につくりあげました。今年は世界中の 13 都市から 43 名の若者たちが集まり、8 月 5 日から 11 日までの期間、相互理解を深め、平和にかかわる問題を討議し、そして世界恒久平和に至る方法を考えました。

この 7 日間を通して、私たちは国境を越えてつながり、友となり、意見を交換し、対話の文化を作り上げたことで、私たちは国際政治や社会問題について、自らの関心を喚起することができました。

私たち青少年国際平和未来会議の参加者は、安心できる将来を手に入れられるようにと、若者たちがみな、周囲の人々から大学に入り卒業するようという強いプレッシャーを受けていることに気が付きました。さらに、若者たちは、社会が高齢化していることから、高齢者をささえるためにより熱心に働きよい仕事に就くよう、推奨されています。

このような人口統計上の変化に向き合う一方で、若者たちは環境の変化にもこれまで以上に注意を向ける必要があります。なぜならば若者たちは、現在の選択の結果を引き受けなければならない次世代だからです。しかしながら、これらの課題は若者たちが直面する政治的な困難の一部にすぎません。核兵器のような大量破壊兵器の存在もまた、重要な課題であり、核兵器の廃絶はすべての世代の望みです。

環境問題は多くの国々において共通の問題です。地球温暖化、汚染、資源不足そして教育の不十分さは、重要な問題であると私たちは考えます。状況を改善するための方策に私たち自身が取り組む必要があります。私たちは、環境にやさしくあり、削減・再利用・再資源化に取り組み、若い世代の関心を喚起するために教育的なプログラムやソーシャルメディアを活用すべきです。さらには、私たちは森林破壊を止め、天然資源を再利用すべきです。

次に、発展途上にある地域では、高い出生率によって、人口が急激に増加しています。しかしながら、ほとんどの先進国は出生率の低下や高齢化に直面しています。政治の問題も、世界平和に影響を与えます。戦争、人権や市民的権利に対する侵害が、そこから引き起こされます。私たちは不正や汚職を促すような、能力がなく不適切な指導者がいることは問題だと考えています。その結果として、人々が利益やニーズそして機会を十分に手に入れることができません。平和に関する効果的かつ十分なリーダーシップを発揮することについて、将来の国の担い手として若者た

ちを教育することや、若い世代に対して平和教育を行うことは、とても必要なことです。さらに私たちは、すべての人々にとってよりよい世界を作るために、若い世代と大人たちがともに取り組まなければならないとも考えます。

私たち若者はこの世界のなかで成長しており、長い時間をかけて引き継がれてきた問題を、私たちが変化させる可能性は限られています。私たちが世界平和を希求する以上は、私たちの目指すゴールへの道をなだらかなものとするべく、急進主義やヘイトに満ちたイデオロギーを排除するために私たちは自身や他者を教育しなければなりません。したがって、私たちは、前に向かって自発的に次のことに取り組みます。平和に関するプロジェクトに参加し、ソーシャルメディアを用いて平和のためのネットワークを組織し、そして平和に関するプログラムに参加します。これらはすべて、私たちの持つ多様な文化への相互理解をもたらし、世界平和を達成する道をもとに作り上げるためのものです。私たちは世界の若者たちに問いかけます。「あなたたち自身から始めよう。IYCPFに参加し、世界の平和を追い求めよう。あなたたちが世界を変えなければ、誰が変えるのでしょうか？」と。

今後開催される会議がこのたびのものよりもさらに良いものになるために、私たちは IYCPF にネットワークを拡大し、世界からより多くの人々を招き仲間を集めることを求めます。そのために、私たちは、これまでに会議に参加した人々が、今後参加する人々とも考えを共有し続けることができ、そして未来の若者たちのために平和な世界を作り出すプロセスの流れを止めることがないように、持続可能で継続的なネットワークを必要としています。新しい参加者が私たちの精神やアイデアを引き継ぎ、平和に関するお互いの考えを活性化しかつ促進し、世界の中で実行に移すことができるように、私たちは次に続く参加者に対して、前の年に示された考えを実行に移すことを期待します。

この数日間に私たちが集まり経験したことやその結果から、私たちの若者としての使命は、世界をより平和で住みやすいものへとするために、環境問題、社会・政治および教育の不十分さと戦う、多様な文化をつなぐネットワークを作り上げることであるのは明らかです。

私たち参加者は、それぞれの母国に戻ったのちもこれらの目標を忘れることはありません。私たちの目的につながるプログラムに参加することで行動を起こす準備を整え、そして、それにつながる目標に向かうように他の人々を励まし、動機づけし、鼓舞し、そして開かれた心を保ち続けるために、私たちが出会った人々と連絡を取り合い続けることが必要であることは明らかです。そのようにすることで、私たち自身の経験を広げ、私たちと同世代の他の人々を励まし、私たちが平和な世界を創造できると確信します。

2019年8月11日



「2019 広島市・大邱広域市青少年交流事業（第 18 回）」開催結果

1 目的

広島市の姉妹都市である韓国大邱広域市を訪問し、生活を共にしながら国際交流を行うことにより、本市と大邱広域市の青少年の相互の友情を深めるとともに、青少年の世界平和への意識を高める。

2 主催

広島市・大邱広域市青少年交流事業実行委員会

（構成：広島県日韓親善協会、広島市教育委員会、広島ユネスコ協会、NPO 法人友愛アカデミー）

3 派遣期間

令和元年 7月 25日（木）～7月 29日（月）（4泊 5日）

4 開催場所

大邱広域市

5 参加者数

広島市 18名〔指導者（通訳含む）3名、青少年 15名（中学生 4名、高校生 11名）〕

大邱広域市 22名〔指導者（通訳含む）6名、青少年 16名（中学生 9名、高校生 7名）〕

6 主な日程

| 日 時       |               | 内 容   | 宿 泊                  |
|-----------|---------------|---|----------------------|
| 7月 25日（木） | 午前<br>夜       | 移動：JR広島駅＝JR博多駅＝福岡空港＝<br>韓国 釜山金海国際空港＝大邱広域市<br>歓迎イベント（歓迎式、夕食会）<br>青少年交流活動（レクリエーション） | 寿城区青少年修練院            |
| 7月 26日（金） | 午前<br>午後      | VR体験、キャンドル作り<br>伝統文化体験（韓服、伝統礼儀、伝統あそび）<br>ホームステイ（対面式）                              | 各ホストファミリー宅           |
| 7月 27日（土） | 終日            | ホームステイ  | 各ホストファミリー宅           |
| 7月 28日（日） | 午前<br>午後<br>夜 | ホームステイ<br>青少年交流活動（班別行動）<br>歓送イベント（サムギョプサルパーティー）<br>青少年交流活動（メッセージ）                 | ホテルアザレア<br>（ユースホステル） |
| 7月 29日（月） | 終日            | 移動：韓国 大邱国際空港＝福岡空港＝<br>JR博多駅＝JR広島駅   |                      |

## 7 研修会等

|            |                               |
|------------|-------------------------------|
| 結団式・事前研修会① | 6月 9日 (日)                     |
| 事前研修会②     | 6月 23日 (日)                    |
| 事前研修会③     | 7月 7日 (日)                     |
| 事前研修会④     | 7月 23日 (火)                    |
| 市長訪問       | 7月 23日 (火)                    |
| 解団式・事後研修会  | 8月 1日 (木)                     |
| 事業報告会      | 11月 17日 (日) (「国際フェスタ 2019」にて) |

## 8 事業後の取組

- ・ 8月6日に原爆ドーム対岸で行われるとうろう流しに参加し、交流活動で大邱の青少年と一緒に作成したとうろうを流した。このとうろう流しの様子は動画で配信し、大邱の青少年とも共有した。
- ・ 参加者が所属する各学校で、本交流事業を通じて学んだことや考えたことを報告する事業参加報告会を行う。(例：8月26日広大附属中学校、10月7日A I C J高等学校、10月15日舟入高等学校、その他の学校については調整中。)
- ・ 11月17日(日)の「国際フェスタ 2019」において事業報告会を行う。
- ・ 参加者への事後アンケート等により活動状況の把握とフォローアップを行う。
- ・ 参加者に対しては、引き続き他の国際交流事業の情報や機会を提供し、事後活動の促進に努める。

## 9 成 果

- ・ 事前研修で、ボランティア講師やひろしまメッセンジャーの協力のもと、韓国や訪問先の大邱広域市についての理解を深めたこと、また、交流時の話題として活用できるよう、広島市の歴史や文化、産業等についても改めて学習を行ったことで、大邱広域市の参加者との積極的なコミュニケーションが図られるなど円滑な交流につながった。
- ・ 両国の青少年が生活を共にしながら交流を進める中で、お互いの国の文化や歴史、生活習慣や考え方について理解を深め、グローバルな視野を広げる契機になり、今後も日韓友好の架け橋となりたいとの意識を醸成することができた。
- ・ 帰国後、参加者の中には、SNSやメールにより大邱の青少年との交流を継続している者や、日韓の良好な関係づくりに向けて何ができるか考えるため、街頭で日韓関係についての意識調査を行うなど、自主的な活動を行った者もいる。
- ・ 日韓関係についての懸念から、他都市の日韓交流事業が相次いで中止される中で、予定通り実施でき、また、実りある活動となったのは、過去17回に及ぶ本交流事業の積み重ねによる成果であると考えている。
- ・ また、参加者は、こうした時期に現地で多くの方と交流したことで、国際理解の重要性を再認識するとともに、平和や友好関係の構築には一人一人が向き合うことが大切であるとの思いを強くした。

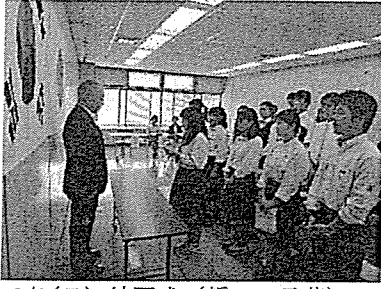
## 10 課 題

本交流事業により、日韓の友好関係強化や世界平和への意欲を持った本市の参加者が、事業終了後も自主的かつ継続的な事後活動に取り組めるよう支援する必要がある。

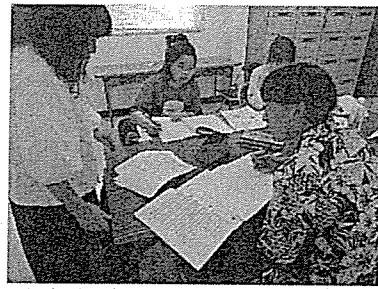
《参加者の所感（一部抜粋）》

- ・ 韓国にいた五日間は驚きの連続でした。韓国で過ごした日々は日本での報道から予想するものとは全く逆で素晴らしい思い出になりました。そして韓国の方は、とても人情に厚く、優しい人だということを知ることができました。韓国のことを音楽やドラマを通して好きでしたが、韓国の人々のあたたかい歓迎を受けてさらに韓国という国が好きになりました。韓国から帰りたくなかったくらいです。  
私はこの交流事業の経験を、家族に話したり学校でスピーチをしたりして様々な人に伝えたいです。そして、私のように韓国に対する考えが良い考えに変わる人がどんどん増えればよいと思っています。私たち、若い世代が韓国と日本の良い関係を率先してつくりあげていきたいです。（中学3年・女子）
- ・ 最初はお互い言葉もよくわからず、すごく緊張してあまりしゃべれていなかった私たちですが、それでも一緒にご飯を食べて同じ時間を過ごすうちに仲良くなり、いつしか「帰りたくない」が口癖になっていました。言葉がわからないなりに、私はあなたといっぱいお話ししたいんですと頑張ると、相手にもその気持ちが伝わるものです。お別れパーティーの後は、私たちが持ってきていた灯籠の紙にみんなで思い思いの言葉を埋めていきました。日本と韓国の平和を願って。この灯籠は、8月6日に広島団のみんなで流しに行きました。日本と韓国で合わさってできた灯籠が旧太田川を流れる様子はとても綺麗でした。（中学3年・女子）
- ・ 国の意見をあたかも国民の総意であるかのように報道しているメディアの情報を鵜呑みにしてはいけないと思いました。だからといって安心してはいられません。大邱では実際に日本製品を買ってはいけないという横断幕があるのを見ました。日本と韓国の間に問題があるのは確かです。これを解決するためにはやはり人と人の地道な繋がりが不可欠です。たとえ日本と韓国の関係が悪くても私たち個人には関係ありません。もちろん一人一人が向き合っていくべき問題ではありますが、その国の人たちまで敬遠してはいけないと思いました。これは日韓についてだけのことではなく他の問題についても言えます。様々な国の人と関わり多様な意見を知り、幅広い視野を持つことが今、私たちに求められていることだと思います。  
私はこの研修に参加して韓国の人たちの優しさにたくさん触れることができました。私が韓国で学んだことをたくさんの人に伝えていきたいです。また、韓国でできた友人たちとこれからも積極的に連絡を取り合っていこうと思います。私の将来の夢は新聞記者になって世界の情勢を多くの人に知らせることです。この研修で学んだことを糧に自分の夢を叶えたいです。（高校2年・女子）
- ・ 私がこの交流に参加すると知った時、多くの友達や先生、家族に心配された。今、日韓関係は険悪で韓国では日本製品の不買運動などのニュースで話題になっていたからだ。私自身も、とても不安だった。しかし、現地で日本人だからといって差別されたり、嫌がらせを受けたりすることもなく、パートナーの家族や友達、テグで初めて出会ったお店の人などは、誰もが優しく接してくれ、自ら日本語を話してくれた。そして、生活も文化も言葉も違う私たちには友情が生まれた。私は、ニュースで伝えられる事が全てではないということを改めて知った。自分の目でしっかり見て、判断することの大切さを痛感した。テレビニュースや新聞で伝わる今の日本と韓国との関係は国対国の歴史や貿易のとても複雑で困難な問題であるが、こんな時だからこそ地域対地域、人対人でしっかり相手と向き合い、関係を築いていかなければならないと思う。  
だから、私は、今回の経験を一人でも多くの人に伝え、日韓の関係を改めて考えてもらうきっかけになればと思う。いつか日本と韓国の架け橋にならたらと思う。（高校2年・女子）

《活動の様子》



6/9(日) 結団式 (誓いの言葉)



7/7(日) 事前研修会 (韓国語講座)



7/23(火) 市長訪問



7/25(木) 歓迎イベント (ダンス披露)



7/26(金) VR体験



7/26(金) 伝統文化体験 (伝統礼儀)



7/26(金) 伝統文化体験 (伝統あそび)



7/26(金) ホームステイ対面式



7/26(金)~28(日) ホームステイ



7/28(日) 青少年交流活動 (班別行動)



7/28(日) サムギョプサルパーティー



7/28(日) 歓送イベント



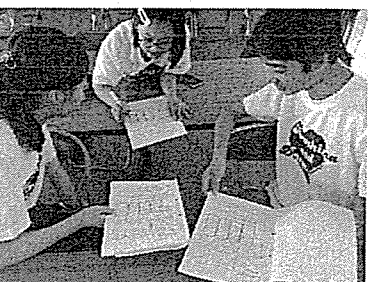
7/28(日) 青少年交流活動 (メッセージ)



7/29(月) 大邱空港 (見送り)



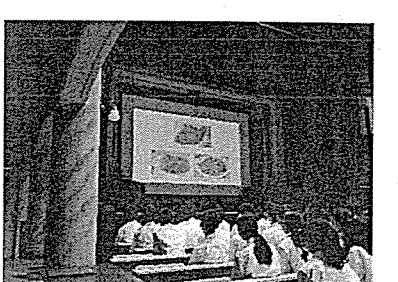
7/29(月) 大邱空港



8/1(木) 事後研修会



8/6(火) とうろう流し



8/26(月) 事後報告会  
(広島大学附属中学校)

## 「令和元年度広島・長崎市児童生徒平和のつどい（第42回）」開催結果

### 1 目的

広島・長崎両市の児童生徒が交互に訪問し合い、平和学習を通じて平和意識の高揚を図るとともに、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育む。また、集団生活や体験学習を通じて、友情と親睦を深めるとともに、自主性や社会性を育てる。さらに、青少年リーダーとしての指導力や実践力を養う。

### 2 主催

広島市教育委員会（青少年育成部育成課）

広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会

[広島市子ども会連合会（担当：西区子ども会連合会）、広島市教育委員会]

### 3 事業期間

令和元年8月23日（金）～8月25日（日）（2泊3日）

### 4 開催場所

広島市

### 5 参加者

広島市子ども会連合会（担当：西区子ども会連合会）

43名〔指導者11名、児童生徒32名（小学生17名、中学生10名、高校生5名）〕

長崎市子ども会育成連合会

35名〔指導者13名、児童生徒22名（小学生12名、中学生7名、高校生3名）〕

### 6 主な日程

| 月日    | 曜日  | 内容   | 宿泊場所        |
|-------|-----|--|-------------|
| 8月23日 | （金） | 入所式、オリエンテーション、歓迎セレモニー 等                                  | 広島市野外活動センター |
| 8月24日 | （土） | 平和学習（献花、折鶴奉納、平和記念資料館見学 等）<br>教育長歓迎セレモニー、市内散策、キャンプファイヤー 等 | 広島市野外活動センター |
| 8月25日 | （日） | お別れセレモニー、解散式 等   |             |

### 7 研修会等

結団式・事前研修会 7月13日（土）

解団式・事後研修会 9月1日（日）

報告会（西区子ども会文化祭） 11月10日（日）予定

## 8 事業後の取組

- ・ 事業概要や参加者が書いた感想文を「感想文集」として作成し、広島市内の各学区の子ども会や南区内の小・中学校に配付する。
- ・ 本事業を通して学んだこと、感じたことを他の子ども達に伝えるため、子ども会の文化祭で参加児童生徒による事業報告を行う（11月10日実施予定）

## 9 成果

- ・ 両市の児童生徒が平和学習を通して平和意識を醸成し、世界恒久平和の実現に貢献する意欲と態度を育むことができた。
- ・ 参加者は集団生活や体験学習を通じて、自主性や社会性を培い、青少年リーダーは、指導力や実践力を養うことができた。

## 10 課題

来年度以降、平和についての学びを一層深める交流を行うとともに、感想文集以外にも、両市の児童生徒が平和について学んだことを成果物として残せるような活動（活動内容の発表の場を増やすなど）が実施できるよう、広島市子ども会連合会や関係機関とも協議し検討する必要がある。

### 《参加者の所感（一部抜粋）》

- ・ 戦争がどうしてもはじまってしまうのか僕には分かりませんが、世界の人が自分と自分以外の人を大切に思い、笑顔で過ごせる日が送れるように、身近なところから優しさや思いやりを持って過ごしていきたいと思いました。（小学5年・男子）
- ・ 私はこの平和のつどいに参加して、改めて今私たちが平和に暮らせることを感謝しなければならなかったと思いました。この3日間で学んだことを生かして、今の平和が続くように自分達にできることは何か考えて行動できるようになりたいです。（小学6年・女子）
- ・ 核兵器を今でも世界は持ち続けています。過去の過ちを二度と繰り返してはいけません。私は身近な親、妹、友達に平和の尊さを伝えられるような人になりたいです。（小学6年・女子）
- ・ これからどんどん原爆を体験した人がいなくなってしまうので、平和の大切さを自分達が未来の子どもたちに伝えていき、二度と原爆が落とされることがないように活動していきたいと思います。（小学6年・男子）
- ・ 戦争という過去の過ちを繰り返さないために、私たちは未来へ平和の尊さや幸せの重みを伝えていかなければならないと思いました。（中学1年・女子）
- ・ これからも、平和のつどいを通じて、広島・長崎からまずは日本へ、その後は世界へ平和のすばらしさを発信できればと願っています。（中学1年・男子）
- ・ これからも核兵器が最初で最後に落とされた都市としてお互いに交流しあい、世界中に戦争の恐ろしさをもっと伝えていきたいです。（中学3年・女子）
- ・ これから私達は被爆された方々から伝えられたことを後世に伝え続けなければなりません。伝えていく責任があります。そのには、二度と繰り返してはいけない事実と、伝えきれない想いと、平和への願いが込められていることを忘れず、少しでも世界が平和に近づくために、今の私達にできることを考えていきたいです。（高校1年・女子）
- ・ リニューアルした資料館に初めて行きました。改めて原子爆弾の恐ろしさを感じ、この恐ろしさを伝えていく大切さを感じました。（高校1年・女子）
- ・ 平和のつどいに参加し、改めて今の日本や世界で起きている紛争について考えるきっかけになりました。（高校2年・女子）



《活動の様子》



8/23 (金) 長崎団 出迎え



8/23 (金) 歓迎セレモニー



8/23 (金) アイスブレイク



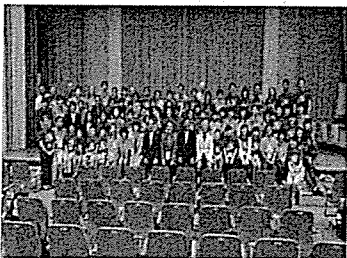
8/24 (土) 献花



8/24 (土) 折鶴奉納



8/24 (土) フィールドワーク



8/24 (土) 教育長歓迎セレモニー



8/24 (土) 資料館見学



8/24 (土) お好み村で昼食



8/24 (土) 市内散策



8/24 (土) 折鶴タワー見学



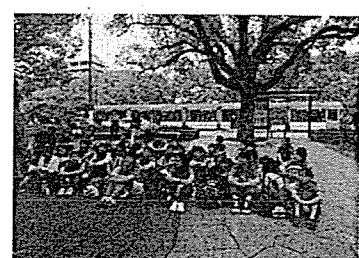
8/24 (土) キャンプファイヤー



8/25 (日) お別れ式



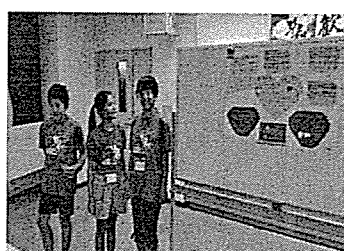
8/25 (日) 長崎団 見送り



8/25 (日) 解散式



9/1 (日) グループ討議 (振り返り)



9/1 (日) 班別発表 (テーマ: これからの自分にできること)

